

第3期美濃加茂市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (フォローアップシート)



令和8年9月策定

岐阜県美濃加茂市

目次

1	個別事業 KPI について	1
2	目標 KPI について	12
3	総合戦略推進アドバイザーの意見について	13
4	今後の方向性について	14

1 個別事業 KPI について

「人の未来をつくる」

① 地域教育推進事業

【ひとづくり課】

KPI	地域教育推進事業「楽習ひろば」参加者数(年間延べ人数) ○現状値:3,699(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	4,200	4,200	4,400	4,400	4,500
		実績値	3,753				
評価	年間に多くの子どもたちが参加して、同学年の他校の児童と交流することができ、社交性や行動力を養うことができた。講座終了後に行うアンケートにおいても来てよかったという声が多い。 また、学校に行くことが困難な子どもたちがここには来られるという保護者からの声も届いており、安心してすごせる居場所として効果をあげている。						

② 若者と未来をつなぐ事業

【ひとづくり課】

KPI	市が開催する若者に向けた取組に関わった若者の人数(人) ○現状値:104(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	100	100	100	100	100
		実績値	132				
評価	若者自身が地域住民や市職員と関わりながら地域課題の解決に取り組む活動を支援したことで、若者が地域に関心を持ち、他の機会においても積極的に地域と関わるようになった。						

③ 学習活用事業

【文化振興課】

KPI	文化の森の学習をきっかけに、他の博物館や美術館に出掛けたことがある人の割合(%) ○現状値:12.5%(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	11	12	12	13	13
		実績値	8.9				
評価	博物館資料という“本物”に直接触れ、学芸員やボランティアと対話する機会は、デジタル情報では得難い実体験として、子どもたちの知的好奇心や主体的な学びの姿勢を育んでいる。 また、学校教育と連携した継続的な利用により、地域の歴史・文化への理解が深まり、自らの暮らすまちへの関心や誇りの醸成にもつながっている。加えて、博物館が地域の学習基盤として機能している点も評価できる。 一方で、館内での学びが館外の文化施設利用へと十分に波及していない課題も見られ、今後は学びの広がりを意識した導線設計が求められる。						

④ 科学のふしぎ解決学習推進事業

【学校教育課】

KPI	理科の学習に関するアンケートで、「理科の勉強が好きか」の質問に対して肯定的な回答をした児童・生徒の割合(%) ○現状値:88(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	80	80	80	97	99
		実績値	83				
評価	「わくわくドキドキ体験広場」において、科学に特化した講師による多様な実験・工作ブースを提供し、参加者は意欲的に活動し、科学への深い興味と探究心が見られた。 「科学作品展」での「岸義人賞」授与は、優秀な児童の努力を称え、さらなる科学への意欲を刺激した。「緑と水のこども会議」の補助事業や、各学校でのサイエンス学習、サイエンスワールドでの体験学習などを展開し、学校現場や地域において、児童生徒が科学と直接触れ合い、その楽しさや面白さを体感する機会が創出され、子どもたちの科学への興味・関心を高め、主体的な学びへとつながる貴重な体験を提供できた。						

⑤ 豊かな体験推進事業

【学校教育課】

KPI	『将来の夢や目標を持っている』に 「当てはまる」「どちらかといえば当 てはまる」と答えた児童生徒の割 合(%) ○現状値:※	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	76	78	80	82	84
		実績値	77				
評価	木曽川でのラフティング体験を通じて、児童生徒は自然への愛着を深め、美濃加茂市の環境の魅力を再認識した。またプログラミング講座では、ドローン操作を通じて好奇心が向上し、未来への夢や学びへの意欲を高める結果が得られた。 動物とのふれあい授業では、命の尊さや五感を活用した体験により自己肯定感が促進されました。 これらの取り組みにより、児童生徒は地域への理解を広げるとともに、生命や環境を大切にする感受性を育み、未来志向で積極的な態度を示すようになった。						

※R7年度開始の KPI のため R6年度の実績値はなし

⑥ 生物多様性地域連携促進事業(みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン掲載事業)

【環境課】

KPI	環境フェアや生物多様性学習会等 への参加者数(人) ※圏域住民の関心度 ○現状値:3,019(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
		実績値	2,400				
評価	環境フェアや生物多様性学習会の開催、美濃加茂自然史研究会の自然環境基礎調査の実施により、圏域の生物多様性の認識や、生態系の保全に対する重要性が多くの人に周知することが出来ている。						

⑦ 「みる」スポーツ推進事業

【スポーツ振興課】

KPI	全国規模のスポーツ大会観戦者数 【市民】(人) ※ホームタウンデー「ともチケ」発 行数 ○現状値:292(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	290	290	290	290	290
		実績値	214				
評価	FC岐阜ホームタウンデーの開催により全国規模のスポーツ大会を提供できたため、参加者のスポーツへの意欲・関心が高まった。小中学生への「夢の教室」開催により、夢に向かって努力することの大切さが伝わった。						

⑧ 教育相談・適応指導教室推進事業

【学校教育課】

KPI	学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない不登校児童生徒の割合(%) ○現状値:20(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	0	0	0	0	0
		実績値	0				
評価	丁寧な教育相談活動や見学の機会の設定により、不登校状態の解消につなげることができた。 あじさい教室通室数4月:3人⇒3月:13人 あじさいフリースペース加茂野通室数4月:3人⇒3月:16人 あじさいフリースペース太田通室数10月:8人⇒3月:13人						

⑨ 参加支援事業

【福祉課】

KPI	事業による「居場所」や「学びの場」の開催回数(回) ○現状値:74(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	42	47	52	54	59
		実績値	60				
評価	支援会議等でツドイバかぐらの活動を周知することで、安心・安全な関係性を求めた住民が集うことができた。また、単純な居場所ではなく、これまで支援を受ける側だった人が、その人の特技を活かしてワークショップの講師を務めるなど、活躍と出番を創出する取組を実施することができた。						

⑩ プレスクール事業

【こども未来課】

KPI	外国人児童のプレスクール事業参加率(%) ○現状値:70(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	45	50	55	60	65
		実績値	80				
評価	事業の周知により、認可外保育施設の協力を得て、参加児童数を増やしている。 語彙調査の結果を教育委員会に提供することで、小学校への就学につなげている。						

⑪ のぞみ教室推進事業(みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン掲載事業)

【学校教育課】

KPI	のぞみ教室に在籍した児童生徒が 小学校・中学校に就学後、年度末まで 在籍した割合【帰国・転校を除く】 (%) ○現状値:100(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100				
評価	・R7年度は85名の児童生徒がのぞみ教室に通室し、そのうち70名が退室をした。その内5名が帰国、転校等、2名が卒業となり、それ以外の63名は在籍校へ戻り、年度末まで在籍通学した。 ・日本語がほとんど理解できない学齢期の外国人児童生徒が、のぞみ教室に通室することで、日本の学校生活へスムーズに適応できた児童が多くいた。また、サバイバル日本語の習得ができ、基礎的・基本的な学力を身につけることができた。						

⑫ 子育て支援事業

【子育て支援課】

KPI	子育て関係事業の参加者数(人) ○現状値:18,897(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	17,200	17,200	17,200	18,000	18,000
		実績値	22,239				
評価	・一時預かり事業の利用登録と利用予約、キャンセル等の手続きをオンライン化(LINE)したことにより、利用者増につながった。 ・親子の絆づくりにおいては、同年齢の子を育てる親子、2人目の子を子育て中など、同じ子育て環境の人を対象に講座を行うことで、子育ての悩みが共感でき、不安や孤独感を軽減させることができている。 ・命の授業では、中学校3年の生徒に、乳児の抱っこ体験、乳幼児との触れ合い、妊婦ジャケットによる妊婦の大変さを体験してもらうことにより、自身が生まれてくるまでの親の大変さや命の尊さを実感してもらうことができている。						

⑬ 幼児療育支援事業(みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン掲載事業)

【子育て支援課】

KPI	研修内容を療育に活かした職員の割合(%)アンケート結果より ○現状値:100(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	100	100	100	100	100
		実績値	100				
評価	■合同研修:講演「5歳児健診の取り組みについて」参加者100名 ・講演後、5歳児健診実施のプロジェクトチームができた町や、関係機関での検討会が始まった町がみられた。 ■人材育成研修: ①構音訓練実施研修:8回(各市町村開催)3名の職員が構音訓練を実施できるようになった。 ②責任者研修:4回連携会議及びオンライン研修実施療育支援は子どもの未来に大きな効果をもたらすことを確認できた。 ■専門職支援:市町村では配置ができない専門職を派遣することにより、支援対象児53名が専門的職員の支援を受けることができた。						

⑭ 保育園ICT活用事業

【こども未来課】

KPI	本事業がスキルアップに有効と感じる保育士の割合(%) ○現状値:90(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	90	92	92	92	92
		実績値	90				
評価	・各園でデータを活用したフィードバック会議を行い、それぞれの保育を振り返り、保育の質を向上させている。 ・月に1回程度、全園長が集まり、ICT 全体会議を開催し、アプリケーションの活用方法やデータの分析等について情報共有をしながらよりよい保育の実施につなげている。						

⑮ 里山保育事業

【こども未来課】

KPI	里山保育(保育内容)の満足度(%) ※保護者アンケート ○現状値:82(R6年度)	年度(R)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	80	80	80	80	80
		実績値	96				
評価	みのかも保育指針の作成により、保育士の里山保育の共通理解を図った。 交流保育を行うことにより、こどもが自園にない里山(自然)に触れる機会を提供している。 岐阜県森林アカデミーの科目履修により保育士のスキルアップが図られた。						

「人の流れをつくる」

① 里山活用事業

【農林課】

KPI	里山整備ボランティア活動の整備面積(ha) ○現状値:1.7(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2
		実績値	1.8				
評価	・国の森林環境譲与税や県の補助金を活用し、広葉樹の植林による新たな里山利用の実証、放置間伐材等の薪利用、新生児への木の器プレゼントによる里山資源の活用や木製品への触れ合いを実施し、千年先まで持続可能な里山の推進を進めることができた。 ・放置竹林の伐採や破碎に対して地元の働きかけによりボランティア活動が実施された。						

② 里山まちづくり事業(みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン掲載事業)

【まちづくり課】

KPI	地域と関わりを持ち続けたいと感じる人の割合(%) ○現状値:81(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	80	80	80	80	80
		実績値	100				
評価	①聞き書き:7名の話し手に対する聞き書きとアーカイブを獲得できたことにより、里山での暮らしや価値観が若い世代にも引き継がれ、地域住民が里山の暮らしの価値を再確認する機会となった。 ②里山体験事業:各自治体の特色を活かした事業が実施できた。里山の魅力を知っていただくきっかけづくりとなった。 ③ホームページ:延べ 55,776 人の方に里山の情報を届けることができた。コラムをきっかけに実際にその場所に足を運んだり、イベントに参加するなど次のアクションにつながった。						

③ 古民家等による地域資源活用事業

【まちづくり課】

KPI	交流人口および関係人口の数(人) ○現状値:294(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	13,000	13,000	13,000	13,000	13,000
		実績値	12,411				
評価	R5年度に改修工事終了。5月から事業者により事業を開始、以前から行っている木工旋盤のシェア工房に加えショップやWSの開催、地域材の活用拠点として利用されている。また、市で行う事業の開催にも利用している。 市内だけではなく県外からの利用もあり、交流人口や関係人口の拠点、地域の魅力を発信する場になっている。						

④ Kisoジオパークにぎわい創出事業(みのかも定住自立圏第3次共生ビジョン掲載事業)

【土木課】

KPI	堤防道路の利用人数(人) ○現状値:271,747(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	268,500	278,300	278,300	278,300	278,300
		実績値	245,558				
評価	堤防道路空間の改善による堤防利用環境の向上や、各種体験学習などのソフト事業が充実してきたことにより、木曽川河畔エリアの利用者数が増加している。 木曽川及び河畔の森などを活用した各種プログラムにより、川との良好な関係性が育まれ、「川のある暮らし」が新たな価値観として広がっている。						

⑤ 中山道観光推進事業

【商工観光課】

KPI	中山道会館来館者数(人) ○現状値:71,452(R5年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	90,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		実績値	72,212				
評価	中山道太田宿の観光客を地域住民と中山道会館を中心に迎え入れ、中山道太田宿の観光付加価値を高めることできた。中山道会館内にあるカフェドリギや、野菜販売などの売り上げは年々上がっていることから賑わいを創出した。						

⑥ 国際交流事業

【まちづくり課】

KPI	青少年派遣・受入報告会参加者数(人) ○現状値:194(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	250	250	250	250	250
		実績値	192				
評価	中学生及び高校生のダボ派遣に関しては、事前の茶道や日本文化の事前研修で自身のルーツを再確認し、実際のダボでの滞在ではオーストラリアの文化に触れるとともに文化の違いや自身の成長につなげていた。 また、ダボからの訪問受け入れに関しては、日本とオーストラリアの学校生活の相違、日本文化の体験を行い、ホストファミリーも温かく迎え入れたこともあって美濃加茂市とダボとの親交にも大いにつながった。						

⑦ 移住して暮らし始めるための支援事業

【まちづくり課】

KPI	まちづくり課が窓口になって移住した件数【空き家バンク成約件数】(件) ○現状値:3(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	6	6	6	6	6
		実績値	2				
評価	自治会加入などの条件をしっかりと伝えるなどコミュニティの重要性を重視しながら事業を進めている。空き家の見学会には地域住民などに参加してもらい移住者が地域になじみやすいよう支援している。 あらたに外部専門家活用事業として里山資源を活用したビジネスの創出などに取組み移住して住み続けられる地域づくりを行っている。						

⑧ 女性活躍推進事業

【商工観光課】

KPI	女性活躍支援センター利用者および講座受講者等の事業への満足度(%) ○現状値:99(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	99	99	99	99	99
		実績値	97				
評価	女性活躍支援センターの運営、セミナー等の実施により、働くことや子育てなど、女性を取り巻く課題に対し、少しでも不安を解消することで生き生きと暮らす、働くことにつなげることができた。 「女性活躍支援センターを利用及び講座を受講したことで、気持ちや意識に良い変化があった人の割合」を数値目標とし、その先の行動に向けて一緒に考えながら、自分らしくイキイキとした生き方・働き方の実現を後押ししていく。 女性活躍支援センター利用者および講座受講者満足度 97%(前年度比-2 ポイント)という結果ではあるが、受講者数は大幅に増加しているため引き続き寄り添いながら続けていく。						

⑨ 姫Biz戦略事業

【商工観光課】

KPI	起業件数(累計) ※姫 Biz 事業によるもの ○現状値:151(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	140	155	170	185	200
		実績値	139				
評価	平成25年の事業開始以来【数字確認中】を超える起業を実現している。 中山道太田宿エリアをはじめ多数の新規事業者が進出しており、当該事業による成果となっている。						

⑩ あい愛バス運行事業

【まちづくり課】

KPI	バス利用者数(人) ○現状値:159,280(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	154,000	158,000	162,000	170,000	178,000
		実績値	174,251				
評価	地域懇談会やアンケート調査等による利用者の意見を参考に、ダイヤ改正等を行った結果、利用者は増加し毎年最高値を更新している。						

⑪ 圏域まるごとスマホ市役所(みのかも定住自立圏事業)

【企画課】

KPI	市LINE公式アカウント【累計】(人) ○現状値:18,601(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	19,200	20,400	21,600	22,800	24,000
		実績値	23,776				
評価	・ツール数の充実と主に着実に登録者が増加している。 ・R6年度150件、R7年度前期は115件ほどのイベント配信主に、イベント来場者数増加、電話問合せの削減の効果があったため、事務効率が良くなってきている。 ・今まで一時預かりの登録時には、市役所への来庁が必要となっていたが、R7年度導入の公的個人認証サービスを活用することで、来庁不要な登録が可能になった。また利用料の支払いについて、R7年度導入のオンライン決済サービスを活用することで、銀行に行かなくても支払いが可能になった。 ・市民の「市からの情報取得はLINEから」という意識は上がっている。						

⑫ シティプロモーション事業

【秘書広報課】

KPI	美濃加茂市に愛着や誇りを感じている人の割合(%) ※「とても感じている」「どちらかといえば感じている」の合計 ○現状値:72.5(R6年度)	年度(令和)	2025(7)	2026(8)	2027(9)	2028(10)	2029(11)
		目標値	65	66	67	68	69
		実績値	71.7				
評価	市の政策方針や取り組みなどを市民に理解してもらうためのイベントを初めて実施し、まちづくりの分野や子育ての分野において、計800人近い人に参加(視聴も含む)してもらい、アンケートでも市の取り組みなどへの興味や理解が進んだ割合が7割を超えており、目的である市民の関心を高めることができたと考える。 また、イベント情報集約サイトでは、毎月の平均訪問者数が昨年よりも約500人増加しており、市民の情報取得ツールとして定着していると考え。 加えて、R7年度は大きな不祥事等の事案が複数回発生したが、契約事業者へのセカンドオピニオンにより市が適切かつ迅速に対応することができ、市ヘネガティブな影響を最小限に抑えることができた。						

事業 KPI の達成状況

分野	事業数	達成	未達成	未実施	実施度	達成度	備考
①人の未来をつくる	15	11	4	0	100	73.3	
②人の流れをつくる	12	5	7	0	100	41.7	
合計	27	16	11	0	100	59.3	

2 目標「住み続けたい、住んでみたいと思える魅力あふれるまちをつくる」について

○総合戦略本体の目標

目標指標(KPI)	基準値(R5年度)	目標値(R10年度)	最新値(R7年度)
人口の社会増減数(累計)	291 人(令和5年度の単年度値)	1,700 人	226人

○政策分野の目標

政策分野	目標指標(KPI)	基準値 (R5年度)	目標値 (R10年度)	最新値(R7年度)
①人の未来をつくる	地域や社会をよくするために何かして みたいと思う児童生徒の割合	小)76.0% 中)71.1%	小)85.0% 中)85.0%	小)78.8% 中)78.3%
②人の流れをつくる	市HPアクセスユーザー数(年間)	346,464 人	430,000 人	445,924 人

【評価】

人口の社会増減については、基準値である令和5年度が291人の増加、令和6年度が309人の増加、令和7年度が226人増加と、社会増減はプラスを維持してきました。これまで、社会増減の増加数が、自然増減の減少数を上回っていたため、総人口は微増ながら増加傾向にありましたが、令和7年度は社会増減の増加数が、自然増減の減少数を下回ったため、総人口が微減しました。外国人人口の増加は継続していることから、今後の社会増減目標の達成においては、日本人人口の増加又は維持に対する取組が必要であると考えます。

政策分野の各目標について、「①人の未来をつくる」の数値については、目標値を達成しないものの、基準値から割合が増加しているため、引き続き、子育て・教育を中心とした効果的かつこどもたちの感性に響くような事業を実施していきます。「②人の流れをつくる」の数値については、目標値を達成しているため、今後も引き続き、市の魅力を市外へ発信することで、市外の方が本市に興味を持っていただくよう努めていきます。

3 総合戦略推進アドバイザーの意見について

○総合戦略の結果について

- ・昨年度の人口が初めて減少に転じたことについて、葬儀業界の情報では死亡者数が減少傾向にあるため、自然増減がマイナスであるということは、出生数減少の影響が大きいと考える。
- ・外国人人口については、来年度以降ビザの規制強化により、料金の値上げ等から人口増加を期待できない可能性もある。
- ・現代の若者は、家を建てる際に予算内で建てられる場所(地価の安い地域など利便性より地価を重視)を探す傾向にあり、結果として居住する自治体を選択することにつながっている。また、若いうちに都会に出て経験を積み、子育て時期に地域に戻り、高齢になったら公共交通が充実した都会で暮らす、というライフスタイルの変化も視野に入れると良い。
- ・子どもの頃に多様な体験をすることが地域への愛着形成に大きく寄与する。幼少期に幸せな体験をした子どもたちは、成長後も地域に関わりを持ち続けてくれる。
- ・学力の高い子どもは市外へ出る傾向があるが、郷土愛を育むことで、市外に出ても地域の関わりを感じて戻ってきってくれることが期待される。そのため学校教育に限定されない、地域全体で多様な教育的機会の創出が重要である。
- ・「お金が無いと幸せじゃない」という価値観が広がる中で、「森のようちえん」のように自然を感じ、楽しめるような事業は良い。所得に関わらず楽しめる環境で人が育つことが重要であり、そのような人は災害時にも自律的に動ける。行政に過度に依存する人を増やすよりも、自律的に行動できる人を育てるべきである。

○交付金活用事業について①(あい愛バスがふれ AI(あい)バスになる事業)

- ・実証実験では停留所が少なくタクシー車両を利用したものだったが、本格運行では停留所増加と車両が大きくなることで乗車人数の増加に期待が持てる。
- ・スクールバスの代わりとしてこどもたちの通学利用(2km 圏内など)の可能性を検討してほしい。

○交付金活用事業について②(未来へつながる居場所づくり事業)

- ・現場の声(各学校のカウンセラーなど)からのフィードバックが重要。
- ・保護者も相談できる場所であれば、利用者の増加に繋がる。ストレスを抱える保護者が一時的に子どもを預けるだけでなく、

保護者自身もサポートを受けられる仕組みが必要。

- ・不登校の理由として「無気力」という理由があるが、背景にゲームをやりすぎることが原因となっているというデータがある。家庭内でゲームをやり過ぎないように注意等するが、管理が難しい現状がある。教育現場からの支援についても検討できると良い。
- ・学校への広報や、ユースセンターでの大人による「心に残る話」(能登支援経験者、洪水体験者など)の提供が有効。費用をかけずに子どもたちの心に残る体験を提供できる。
- ・DX など若者が興味を持つテーマでの交流の場や、スタートアップの話を聞ける機会などを設けることが、若者の集まりの場を活性化させる。

4 今後の方向性について

美濃加茂市における人口動態は、これまで微増ながら増加傾向にありましたが、令和7年度は、総人口(住民基本台帳人口)が減少するという結果となりました。この現状を踏まえ、さらなる人口の社会増を目指すためには、経済的支援による事業展開ではなく、美濃加茂市独自の魅力と価値を創出する事業の展開と、積極的なプロモーション活動が不可欠であると考えます。

引き続き本戦略の重要な柱である教育を今後も推進することで、市民のウェルビーイング(満足度・幸福度)向上を図り、若い世代の定住を促進します。そして、広く市外へも本市の魅力を発信し、転入を促していきます。